日本キリスト教文学会中部支部春の研究会のお知らせ

日時：２０２４年3月２３日（土）１４時より
場所：ZOOM でのご発表 発表：大野隆氏（名古屋経済大学名誉教授）
演題：「"The shepherd’s brow"とスプーンの中の嵐」 他の支部にご所属の方もぜひご出席ください。

他支部の方の申し込みは以下のフォームに申し込んでください。
よろしくお願いいたします。３月２１日（木）まで
https://forms.gle/4GiCU1hcw4qQnyFN8

発表要旨

G. M.ホプキンズのソネット“The shepherd‘s brow”は、1889 年 4 月に完成したが、同 年 6 月に彼は 44 歳で他界した。この作品は、彼の最晩年のソネット群のひとつだが、その冷笑 性のゆえに未完詩とみなされ、1918 年の詩集第 1 版からは除外された。本詩の解釈をめぐ っては、19 世紀末のイエズス会士にまだ維持されていた天使への信心やイグナチオ流の過 酷ともいえる良心究明の姿勢への理解が不可欠である。また、詩人の聖母崇敬についての大 まかな理解も必要である。この詩の魅力は、英雄崇拝的な時代が終わり、‘小さな人々’が描 かれ始めた点にある。しかし、この人々の行為には、一抹の不安もある。自分もその人々の ひとりであると自認し、自分にひそむ危うさを感じ、詩の語り手はソネット末尾でそれを示 唆する。詩のテキストは、W. H. Gardner and N. H. Mackenzie, eds., The Poems of Gerard Manley Hopkins, 4th ed. (London: Oxford Univ. Press, 1967)を用いる。日本語訳としては、 安田章一郎氏の『新版 G. M. ホプキンズ研究』(清水弘文堂、1983 年)中のものが、この ソネット理解への大きな助けとなる。